

「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方

～身近な環境や自然に対して主体的に関わるこどもの育成～

I. 研究テーマにかかわって

地球温暖化や廃棄物、自然破壊などの様々な今日の環境問題を解決するためには、我々一人一人が環境と人間との関わりや自然など環境の価値についての認識を深めるとともに、環境問題を引き起こしている社会経済等の仕組みを理解し、環境に配慮した仕組みに社会を変革していく努力を行うことが必要である。

文部科学省では環境教育について「環境教育とは、環境や環境問題に関心・知識を持ち、人間活動と環境とのかかわりについて総合的な理解と認識の上にたつて、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技能や思考力、判断力を身に付け、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成すること。」と定義している。（『環境教育指導資料』2006年）

小学校における環境教育では、子どもが身近な環境に意欲的にかかわり問題を見出し、考え判断し、よりよい環境作りや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度を育てることを目指す。生じている問題への「気づき」「知識」「問題解決への実行力」を育て、最終的には自分達のライフスタイルを見直す力量をもつことが期待されている。

環境教育や環境学習の機会を充実させ、環境や自然に対する豊かな感受性と熱意、見識をもつ「人づくり」をめざし、本テーマを設定した。

II. 研究の具体的内容

1 環境教育に関わる学習会

「森林と環境」 講師 森林総合研究所 林業普及指導員 小松澤 靖氏

・日本の森林の現状と課題、森林と人間との関わり、これから考えていかなければならないことなどについて、学習した。

2 研究授業 資料を持ち寄っての理論研究 内容の検討 授業案検討 授業資料準備

(1) 5年 総合的な学習「環境問題について考えよう」

塩山南小学校 授業者 深澤 真人 教諭

・田んぼに関わることを通して、環境と生物の関わりを体験的に学習し、環境問題の学習に取り組む。

(2) 5年 総合的な学習「自然エネルギーを利用した発電について考える」

東雲小学校 授業者 精進 利恵 教諭

・身の回りの様々なエネルギーと暮らしとの関わりを理解し、風の力で電気をつくる体験を通して、電気エネルギーを大切に使う必要性を考える。

3 一人一実践の報告

4 臨地研修

甲州市大和地区 竜門峡周辺の自然観察

### Ⅲ. 成果と課題

#### 1 学習会

山梨県は周囲を山に囲まれ、森林は身近な自然環境であるが、実際の森林の状況や日本の林業の現状などについては、子どもだけでなく教師もよく把握できていない。そこで、森林総合研究所の小松澤靖氏を講師に招き、森林の現状・木材についての基礎知識・林野の管理など多面的に森林と環境について学習した。

昔は生活の一部として森林の役割が考えられていたが、今は目を向けることが少なくなってしまう。体験的な活動を通して、また、森林や林業に対する正確な知識を身につけて、日常の生活に生かせるようにしていかなければならない。そして持続的な環境に対する取り組みが必要になる。環境に関する取り組みには裏と表があり、地球への負荷の問題をトータルにとらえて考えていかなければならない。これらのことなどを学習会を通じて理解することができた。

#### 2 研究授業

「身近な環境や自然に対して主体的に関わる」というサブテーマに基づいて、2本の研究授業を行った。

塩山南小5年「環境問題について考えよう」では、中庭に田んぼを作り身近にふれることのできる環境を作って実践した。はじめは泥の中に素足で入ることを躊躇していた子どもたちも、いろいろな生き物にふれて心が動く体験をすることができた。好きになることから自然を守りたいという気持ちが育まれる。この授業を通じて田んぼを取り巻く環境に対して興味を持ち、広く環境問題の学習に取り組もうとする意欲が喚起された。体験することの重要性を改めて実感した授業だった。

東雲小5年「自然エネルギーを利用した発電について考える」は、毎日あたりまえのように使っている電気は、暮らしになくてはならないエネルギーであることを理解し、電気をどのようにして作り出しているかを体験的に学習することで、日常生活に生かすことができるようにするという実践だった。ここでも、体験することを通してエネルギーを作るということを主体的に学習することができた。また、資料の提示のしかたなどでも工夫された授業であった。

#### 3 実践報告

部会員全員がひとり一実践を報告することができた。総合、理科、生活、道徳など様々な取り組みの紹介があり、どの実践も大変参考になった。いろいろな視点から環境問題について考えることができ、深まりがみられた。テーマも多岐にわたり、また、学年も多様であったため、これからの日々の実践に生かしていくヒントをたくさん共有できた。

今後、環境について学習したことを学校全体や家庭に広めていくことができるとよい。

#### 4 臨地研修

甲州市大和地区の自然観察をおこなった。竜門峡周辺の植物・昆虫や川の様子などを観察し、授業を行う上での視点を見つけることができた。実際に大きな自然の中で生き物の様子を近くに観察する機会は、忙しい中で難しいが、大変貴重な経験をすることができた。

(部長 石原喜久夫)